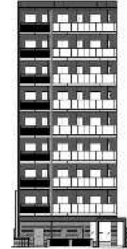


# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)さいたま市南区南本町1丁目	階数	地上9F
建設地	さいたま市南区南本町1-3-8, 9,	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	168 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2024年7月20日
敷地面積	500 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	299 m <sup>2</sup>	確認日	2024年8月7日
延床面積	2,175 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 79%

③上記+②以外の 79%

④上記+ 79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

##### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

##### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.2

#### LR 環境負荷低減性

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.7

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 品確法による評価で、等級4以上となる外皮断熱・一次エネ消費量を満足させ、地球環境に配慮した。		
<b>Q1 室内環境</b> 室内環境を保持するため、外部騒音に対し、南側住戸については、T-2サツ、北側住戸については、距離はあるが、T-4サツの採用とする。また、住戸間スラブ厚についてコシカトも200とし、上下巻の騒音レベルを下げ、内装材に	<b>Q2 サービス性能</b> 構造について、劣化等級3とし、耐久性に配慮した。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 南側道路に対し、計画建物とのスペースを駐車場を配することで、十分に開け、歩行者に対し、圧迫感を生じない計画とした。
<b>LR1 エネルギー</b> 総合でも触れているが、住戸の一次エネルギー消費量結果としてBEI算定で、1以下となるよう計画した。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 発泡断熱材は硬質ウレタンフォームA種 1H採用で計画した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 駐輪台数において、市の条例に基づき確保し、駐輪台数についてもできるだけ配置した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
**(仮称)さいたま市南区南本町1丁目計画**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質							2.9
Q1 室内環境			0.40		-		3.1		
1 音環境		3.0	1.00	3.7	1.00		3.6		
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50				
1.2 遮音		3.0	0.50	4.5	0.50				
1 開口部遮音性能	ABCはT-2、DEタイプはT-4サッシ採用	3.0	1.00	5.0	0.30				
2 界壁遮音性能	ABCはRC t180、DE間は吉野石膏A2000WIにて施工	1.0	-	4.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	RCt200のうえ、居室置床をLL40採用-万協YEP	3.0	-	5.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	RCt200としている	3.0	-	4.0	0.20				
1.3 吸音									
2 温熱環境		1.3	0.35	2.5	1.00		2.3		
2.1 室温制御		1.7	0.50	3.3	0.50				
1 室温		1.0	0.63	3.0	0.63				
2 外皮性能	省エネ要求の0.87以下とし、住宅性能4等級相当としている	3.0	0.38	4.0	0.38				
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	0.20				
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30				
3 光・視環境		1.9	0.25	3.0	1.00		2.7		
3.1 昼光利用		3.0	0.30	3.0	0.30				
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	0.50				
2 方位別開口				3.0	0.30				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20				
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.30				
1 昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00				
3.3 照度		1.0	0.15	3.0	0.15				
3.4 照明制御		1.0	0.25	3.0	0.25				
4 空気質環境		4.6	0.25	4.5	1.00		4.5		
4.1 発生源対策		5.0	0.60	5.0	0.63				
1 化学汚染物質	周辺に汚染発生源は特になし	5.0	1.00	5.0	1.00				
4.2 換気		4.0	0.40	3.6	0.38				
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33				
2 自然換気性能		1.0	-	3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮	周辺に汚染外気は特になし	5.0	0.50	5.0	0.33				
4.3 運用管理									
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-						
2 喫煙の制御		3.0	-						
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-		3.3		
1 機能性		2.4	0.40	3.8	1.00		3.5		
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60				
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応	NTT・つなぐネット利用可能としている	1.0	-	5.0	1.00				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00						
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40				
1 広さ感・景観		1.0	-	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50				
1.3 維持管理		3.0	0.30						
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50						
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30				3.1		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.30						
1 躯体材料の耐用年数	住宅性能評価劣化対策等級3を採用	5.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	石膏プラスターボード下地でビニルクロスが主な内装材	4.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20						
2.4 信頼性		2.8	0.20						
1 空調・換気設備		3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20						
3 電気設備		3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20						
5 通信・情報設備		3.0	0.20						

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.2</b>	0.30	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.2</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				-	<b>3.6</b>	0.50	
1	階高のゆとり	階高2.91m確保	1.0	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>2.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	躯体内配管等がない。	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.1</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			住宅性能評価断熱等級4を確保	<b>4.0</b>	0.20	-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>2.0</b>	0.10	-	<b>2.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			[BEI][BEIm] = 0.83	<b>5.0</b>	0.50	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>				<b>3.0</b>	0.20	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価				-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	<b>3.0</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			PSを設け、内装材を傷つけずに再利用できる	4.0	0.20	-	-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			評価書3.1通り	<b>4.0</b>	0.30	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				<b>3.5</b>	0.70	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	断熱材A種1Hの採用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		2.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			評価書LR3の1通り	<b>3.8</b>	0.33	-	<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.33	-	-	<b>2.0</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>1.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.4</b>	0.33	-	-	<b>2.4</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>1.6</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	